

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで（市役所内線207）。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 Facebook で情報発信中！

約50年ぶりの酒蔵―萬乗醸造の新酒蔵完成

（2月22日 株式会社萬乗醸造新酒蔵（黒田庄町門柳））

本市と連携協定を結ぶ酒造会社・株式会社萬乗醸造の酒蔵が完成し、久野九平治代表取締役社長や井戸敏三県知事、片山市長ら関係者が鏡開きをして祝いました。

同社によると、4月から試験稼働させ、秋に山田錦の新米を使って酒造りを開始。来冬には酒米作りから醸造まで市内で一貫生産し

た「オール西脇市産」の日本酒が誕生します。

本市は同社と平成30年10月に産業振興や人材育成などに関する包括的な連携協定を締結。大学や関係機関との連携調整役を担うなど、同社とともに「ものづくり」と「ひとづくり」に取り組みます（21、23ページに関連記事）。



落成式での関係者による鏡開き



完成した農業棟（手前）と醸造棟

新型コロナウイルス対策に―市内2社が寄付

（3月13日、19日 西脇市役所）

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全国的にアルコール消毒液やマスクの品薄状態が続く中、市内企業の株式会社ozawaから弱酸性次亜塩素酸水溶液200リットルを、株式会社ユタックスからマスク約7千枚を寄付いただきました。両社の社長らが市役所を訪ね、片山市長に手渡しました。

次亜塩素酸水溶液は高い除菌力を持つとされており、ozawaの小澤國秀代表取締役社長は公共施設でのウイルス対策に役立ててほしいと寄付。ユタックスの宇高大介代表取締役社長は洗濯して繰り返し使えるマスクを製作し、市内の5歳児から中学3年生までの子どもたちに贈ります。



ozawaの小澤國秀代表取締役社長（右）



ユタックスの宇高大介代表取締役社長（左）

つむぎ 荣誉をたたえ「絆賞」贈呈

（3月3日 西脇市役所）



兵庫県や全国で活躍した市内の小中学生を対象に、今年2人に「絆賞」を贈呈

西脇市では平成14年度からスポーツや文化などの分野で優秀な成績を収めた市内の小中学生に、西脇市少年スポーツ・文化大賞「絆賞」を贈っています。今年はいずれも「全国中学校美術部作品展」で入賞に輝いた藤井音羽さんと滝本美華さんを表彰しました（24ページに関連記事）。

沿線のシンボルに―地蔵一本桜の苗木植樹

（3月1日 はやす駅跡公園（羽安町）、徳部野川ポケットパーク（市原町））



メンバーは公益財団法人日本の花の会の鶴田誠さん（左から2人目）の指導を受けながら植樹

日野北バイパス沿線の自治会代表でつくるJR跡地道路化推進委員会の皆さんが、バイパス開通を記念して沿道の2箇所（地蔵一本桜）を苗木を植樹。苗木は「日野の里地蔵一本桜」を大島桜に接ぎ木したもので、斎藤周蔵委員長は「きれいな花を咲かせ、シンボルになることを願っています」とあいさつしました。

「ナニワのカリスマ添乗員」が指南―道の駅のセミナーで

（3月1日 北はりま田園空間博物館）



セミナーはボランティアガイドの養成を目的に開催され、約50人が参加

「ナニワのカリスマ添乗員」として知られる大手旅行会社の添乗員・平田進也さんを講師に迎え、北はりま田園空間博物館がセミナーを開催。平田さんは笑いを交えながら、「ガイドはお客様を笑わせ、喜ばせることが大切。面白い話を挟むことで、話を聞かせることができる」などと語りました。

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



市は株式会社ナガワ（東京都千代田区）と災害時に必要な資機材の提供に関する協定を締結。本市が被災したときに、避難所やボランティアの受け入れ場所で使うユニットハウスや発電機、仮設トイレなどを同社から優先的に有償で借りることが可能となりました。同社との締結は三田市に次いで県内2例目。本市では昨年1月に大手ホームセンター3社とも災害時の物資供給に関する協定を結んでおり、防災体制のさらなる強化を図っています。（3月16日）



全国へそのまち協議会加盟市町村のPRを目的に、「へそ」や「中心」を名乗る加盟10市町村の特産品を集めた物産展を開催。昨年の台風19号で被害を受けた福島県本宮市と栃木県佐野市の復興を支援しようと、両市の商品を多く取りそろえました。初日には北はりま農産物直売所出荷者協議会が本宮市の手作りみそを使った豚汁を販売しました。（2月22日～24日、北はりま農産物直売所）



忍者にふんした親子がチャンバラや宝探しをして遊ぶ催しに約50人が参加。催しは子育てを楽しんでもらおうと、市民活動グループと市が企画。（2月24日、茜が丘複合施設みらいえ）